

参考・引用文献

- Anne J. D., Tschudin, V., Raeve, L. (2008). 看護倫理を教える・学ぶ—倫理教育の視点と方法. 小西恵美子監訳 (2008). 日本看護協会出版会.
- 赤松望, 奥原由美 (2011). 新生児病棟における新人看護師の困難と仕事継続の原動力 入職3ヶ月に焦点をあてて. 長野県看護研究学会論文集, 31回, 68-70
- 荒川千秋, 細川淳子, 小山内由希子他 (2006). 大卒新人看護師の支援のあり方に関する研究. 日本看護管理学会誌, 10 (1), 37-43.
- 馬場さゆり (2009). 新人看護師のリアリティショックの要因 看護教育内容の理解力、リアリティショック状態との関連. 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録, 34号, 218-224.
- Benner, P. (2001). ベナー看護論 新訳版 初心者から達人へ. 井部俊子監訳 (2005). 医学書院.
- Benner, P. & Wrubel, J. (1989). The primacy of caring. CA Menlo Park: Admission-Wesley Menlo
- Benner, P. Sutophen, M. & Leonard, V. (2009). ナースを育てる. 早野 ZITO 真佐子監訳 (2011). 医学書院.
- C. Rosenberg (1987) The Care of Strangers : The Rise of America's Hospital System. New York. The Johns Hopkins University Press.
- Curtain, L. L. (1979). The nurse as advocate ; A philosophical foundation for nursing.
- 江畑典子, 新野由子 (2006). 新人看護師の成長過程と支援のあり方. 第37回日本看護学会論文集 (看護管理), 255-257. vances in Nursing Science, 1(3), 1-10.
- Forrest, D. (1989). The experience of caring. Journal of Advanced Nursing. 14(10), 815-823.
- 濱田さおり (2010). 手術室新人看護師のリアリティショックの現状 リアリティショック構成要因別の分析から. 日本看護学会論文集: 看護教育, 40号, 45-47.
- 原田雅子 (2011). 熟練外来看護師のやりがい獲得の過程に潜在する実践知の可視化. 日本科学学会誌, 31(2), 69-78.
- Helga, K. (1997). Caring; Nurses, Woman and Ethics. Oxford: Blackwell. 34-62.
- 平塚陽子 (2009). 新卒看護師が感じる看護基礎教育と看護実践現場とのギャップ. 北日

本看護学会誌, 11(2), 13-21.

- Hochschild, A.(1983). 管理される心—感情が商品になるとき. 石川准・室伏亜希(2000). 世界思想社.
- 井出恭代, 太田由起美, 坂口けさみ(2010). 新卒看護師の半年間の思い インタビューを通して. 長野県看護研究学会論文集, 30 回, 130-132.
- 糸嶺一郎, 鈴木英子, 叶谷由佳, 他(2004). リアリティショックに関する研究(その 1) 文献検討から(会議録). 日本看護協会雑誌, 27(3), 196.
- Jan Read & Ian Ground(1997).考える看護. 原信田実訳 (2001). 医学書院. 159-160.
- 亀岡智美, 定廣和香子, 船島なをみ (2001). 目標達成と満足度が高い看護婦・士の特性の探究—キング目標達成理論を基盤にして—. 看護教育学研究, 10 (1), 9-42.
- Kathleen B.G. & Marilyn H. Oermann (1999). 臨床看護のストラテジー. 勝原裕美子 監訳 (2005). 医学書院. p.7.
- 片山美桜(2011). 神経筋疾患で勤務する新人看護師の不安の実態と経時的変化. 中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌, 6 巻, 173-176.
- 勝原裕美子, ウィリアムソン彰子, 尾形真実也 (2005) 新人看護師のリアリティ・ショックの実態と類型化の試み, 看護学生から看護師への移行プロセスにおける二時点調査から, 日本看護管理学会誌, 9(1), 30-37.
- 勝原裕美子, ウィリアムソン彰子, 尾形真実哉 (2004). 専門職のキャリア発達に影響を与えるリアリティショックの実態 —看護学生から看護師への移行プロセスにおけるプロフェッションフードの変容に焦点を当てて—. 経営行動科学学会年次大会 発表論文集, (7), 40—47.
- 神島滋子(2009). 救急部門に勤務する卒後 3 年目までの看護師の職場適応構造 インタビューの分析より. 日本救急看護学会誌, 11(1), 1-11.
- 城戸滋里(2010). 職域別にみたストレス対策 看護職のストレス対策. ストレス科学, 25(1), 18-24.
- 厚生労働省看護問題研究会監(2004). 新たな看護のあり方に関する検討会報告書. 日本看護協会出版会, 184.
- 厚生労働省 (2011). 新人看護研修ガイドライン.

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200000128o8-att/2r985200000128vp.pdf>

(最終閲覧 2013 年 1 月 26 日)

- ・厚生労働省 (2010). 今後の看護教員のあり方に関する検討会報告書

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/02/dl/s0217-7b.pdf>

(最終閲覧 2013 年 1 月 26 日)

- ・近藤美月 (2002). 新人看護師のリアリティショックに関する縦断的研究ーリアリティショックに陥る時期と要因の関連性について, 第 33 回日本看護学会集録, 看護管理, 257-259.
- ・Kramer, M. (1974). Reality Shock why nurses leave nursing. C. V. Mosby. St Louis.
- ・前川幸子 (2008). 看護における実践と省察のプロセス. 看護教育. 49 (5). 407-412.
- ・松谷美和子(2008). 卒業に向けた実践力の養成 卒業に向けて実践力をどう高めていくか. 看護展望, 33(13), 1224-1227.
- ・Milton, M.(1990). ケアの本質ー生きることの意味. 田村真訳(1987). ゆみる出版.
- ・三井さよ(2006).感情労働論(2)ースキルとしての感情管理 看護職における感情労働, 大原社会問題研究所雑誌, No.567, 14-26
- ・水田真由美 a(2004). 新卒看護師の職場適応に関する研究 リアリティショックと回復に影響する要因. 日本看護研究学会雑誌, 27(1), 91-99.
- ・水田真由美, 上坂良子, 辻幸代他(2004). 新卒看護師の精神健康度と離職願望. 和歌山県立医科大学看護短期大学部紀要. 7. 21-27.
- ・文部科学省 (2011). 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/_icsFiles/afieldfile/2020/03/11/1302921_1_1.pdf (最終閲覧 2013 年 1 月 26 日)
- ・桃井雅子, 佐居由美, 松崎直子, 他(2008). 新人看護師の移行演習プログラムの試行と評価(1) コミュニケーション・スキル習得のための演習. 聖路加看護学会誌, 12(2), 41-49.
- ・森谷真澄美(2010). 新卒看護師のリアリティショックと乗り越え方. 日本看護学会論文集: 看護管理, 40 号, 300-302.
- ・村上みち子, 船島なをみ (2002). 看護学教員のロールモデル行動に関する研究ーファカルティ・ディベロプメントの指標の探究ー. 看護研究, 35 (6). 35-46.
- ・村上好恵, 平林優子, 飯田正子, 他(2008). 新人看護師の移行演習プログラムの試行と

評価(2) 状況設定の中での与薬の危険. 聖路加看護学会誌, 12(2), 50-57.

- ・ 中川雅子(2004). 新卒看護師に対する教育の実態と課題「看護職新規採用者の臨床能力の評価と能力開発に関する研究」より教育担当者の課題を中心に. 看護, 56(3), 40-44.
- ・ 日本看護協会(2012). 2011年 病院看護実態調査 結果速報,
<http://www.nurse.or.jp/home/opinion/newsrelease/2011pdf/20120222.pdf> [2012-05-14]
- ・ 日本看護協会 (2012) 2012年2月22日「2011年 病院看護実態調査」結果速報
http://www.nurse.or.jp/up_pdf/20120806122153_f.pdf (最終閲覧 2013年1月20日)
- ・ 日本看護協会 (2004). 新卒看護職員の早期離職等実態調査.
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/03/dl/s0329-13b-5-3.pdf>
(最終閲覧 2013年1月26日)
- ・ Oermann, M. H. , & Gaberson, K. B. (1998). Evaluation and testing in nursing education. New York: Springer.
- ・ 太田美緒, 前田樹海 (2009). 文献に見るわが国の看護教育におけるロールモデルの概念. 長野県看護大学紀要. 11. 51-61.
- ・ 佐居由美, 松谷美和子, 平林優子, 他(2007). 新卒看護師のリアリテイショックの構造と教育プログラムのあり方. 聖路加看護学会誌, 11(1), 100-107.
- ・ 佐居由美, 松谷美和子, 平林優子, 他(2009). 看護学生の卒直後と卒後3か月の「臨床実践能力」の比較. 日本看護学会論文集:看護管理, 39号, 155-157.
- ・ 佐藤真理子, 安西伸江, 田中愛子(2004). 新人看護師の悩みに関する研究. 岡山済生会総合病院雑誌, 36, 100-106.
- ・ Sara, T. Fry & Megan-jane Johnstone (2008). 看護実践の倫理 第3版. 片田範子・山本あい子訳 (2010). 日本看護協会出版会. p.57 .
- ・ 清水寛子, 日下ゆみ, 蘆川ふくみ(2005). いまどきの新卒看護師の離職願望に関連する要因. 第36回日本看護学会集録(看護管理). 71-73.
- ・ Styles, M. M.(1982)On Nursing: Toward a New Endowment, The C.V. Mosby Company, p.8
- ・ 武井麻子(2001). 感情と看護一人とのかかわりを職業とすること, 医学書院
- ・ 田村由美 (2008). 看護基礎教育におけるリフレクションの実践. 看護研究. 41 (3). p.197-207.

- 多崎恵子, 稲垣美智子, 松井希代子他 (2007). 看護婦の糖尿病教育におけるロールモデルの存在と実践意欲の実態. 金沢大学つるま保健学会誌, 31 (1), 61-69.
- Yankelovich,D.(1974). The meaning of work. In J. Rosow, The worker and the job; coping with change. Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall.